

コラム 「北海道の道路緑化指針(案)」改訂版と「道の駅の防災機能を高める手引き(案)」を作成

1) 「北海道の道路緑化指針(案)」改訂版を作成

街路樹は、景観形成や沿道環境の保全等に大きく寄与しており、快適な街並みの創出等のために必要性が増しています。(写真-1, 2)

一方で「北海道の道路緑化指針(案)」は、発刊から既に約30年以上が経過し、選定樹種が産業管理外来種に指定されるなど、社会情勢の変化に合わない記載事項が見受けられるようになってきました。

このため、地域景観ユニットでは「北海道における街路樹の景観機能を考慮したせん定技術に関する研究」の成果を踏まえ、国や自治体等の道路管理者と有識者による検討会を開催し、「北海道の道路緑化指針(案)」改訂版を作成しました。これにより、道路空間の質的向上に貢献しています。

2) 「道の駅の防災機能を高める手引き(案)」を作成

道の駅は、新潟県中越地震や東日本大震災、オホーツク暴風雪災害において避難者支援や復旧支援に大きく貢献しました。(図-1, 写真-3)さらに、「国土強靱化政策大綱」においても道の駅の防災拠点化が示され、整備が進められています。

しかし、整備内容が災害時の実際の活用のされ方と相違が見られる場合があるだけでなく、平常時の快適性や景観性が損なわれている例も少なくありません。

このため、「道の駅の防災機能向上に関する研究」により、効果的な防災機能の発揮と、平常時における機能の向上が相乗効果を与える整備、管理、運営手法を提案し、それを「道の駅の防災機能を高める手引き(案)」にとりまとめ、道の駅の防災機能向上に貢献しています。



写真-1 街路樹が生み出す良好な道路景観



写真-2 枝葉を伸ばす空間があるにもかかわらず極端に切り詰められた街路樹

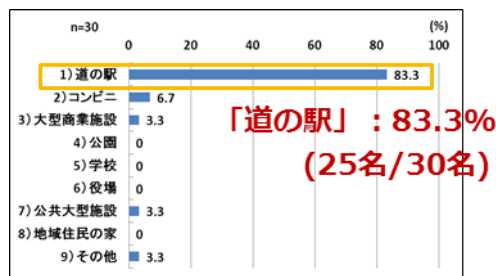


図-1 オホーツク暴風雪災害(H25. 3)の際の運転中の避難先



写真-3 暴風雪災害時に道の駅に避難している状況